

2021 年度(令和3年度)学校評価自己評価表

鳳中学校区	校番55	福山市立幕山小学校
最終更新日	2021年(令和3年)10月28日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	思考力・表現力 他者とかかわる力
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても、児童生徒が主体的に活動できるよう色々と工夫をした取組がなされている。 子ども達に思考力・表現力を付けるための内容に取り組んでいると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現する力について、「書くこと」は高まっているが、他者の意見を聞いて「自分の考えを話すこと」「読解力」に課題がある。 臨時休業の影響もあり、体力づくりについて、課題を焦点化し、継続的に取組をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等 	<ul style="list-style-type: none"> 「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる」 論理的に考え、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見を主張することができる。 他者や集団のため、自ら考え主体的に行動できる。 論理的に考え、判断し、他者の考えを尊重しつつ、自らの考えを表現する力を育てる。

III 自校

<p>ミッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が進んで学び、仲間と関わり、生きる力を育む学校(自律・人権尊重) ○教職員は、児童一人一人のファシリテーターとしての役割を果たす学校(挑戦) ○児童・保護者・地域住民・教職員が一緒になって築き、創造する学校(創造) 	<p>学校教育目標</p> <p>夢に向かって、自ら学び、仲間とともにたくましく生きる幕山っ子の育成</p>	<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> たてわり活動で異学年との交流を活発に行ったことで、異学年間の人間関係が形成されてきている。また、自主学習に取り組む児童も多くみられ、自分の学習したい内容を選んだり、自分に合った学習スタイルに合わせて学習に向かったりすることもできるようになってきている。 体を動かすことが好きな児童が多く、活動的で伸び伸びと生活している。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを活用し、多様な考え方にふれたり、新たな考え方に気付いたりすることで、教員自身学びが楽しいと感じている。 ICT活用を積極的に進めているが、児童が自律的な学習者となるよう、目的に照らした効果的な活用については課題がある。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>課題発見・課題追究力 思考力・表現力 他者を理解し関わる力 挑戦する力</p>	<p>めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> 課 思 他 挑 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、見通しをもって課題解決に取り組むことができる。 ・課題に対して、既知の知識を用いて、比較・分類・関係づけるなど思考し、相手意識を持ち、表現することができる。 ・自分の考えを持ち、他者の考えを受け入れ、他者と協働的に関わるすることができる。 ・自分の目標に向かって、粘り強く努力することができる。
			<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>「学びに向かう力」を育成する学校づくり ～児童が「問い」をもち、主体的に課題解決を図る授業の創造～</p> <p>全体：「生活・理科」「特別活動」 個別：教員個々が学びの探究者となり、各教科・領域等を選択し、研究を進める。</p>	
			めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が予想と友達の考えとのズレから問いをもつ姿 ・児童が試行錯誤しながら主体的に問いに向き合う姿 ・児童が既知の知識・経験を活用し、学びを広げようとする姿 ・児童が仲間と対話したり、自分で調べたりして、学びを深めようとする姿 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 幕山小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
2	「子ども主体の学び」を通じた、思考力・表現力の育成	★	継続	子どもの学びに向かう力を育成する授業づくり	校内授業公開、事後協議会及び個人研究発表会を行う。(年に1人1回)	「自分で考え、学ぶことが楽しい」と思う児童を80%以上にする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">肯定的評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">79%</div> 認知科学に関する校内研究、実践の共有をし、教職員の授業づくりに関する意識を高めた。	3	3	校内研究以外にも授業づくりに関する対話の機会を定期的に確保し、教職員間で子ども主体の学びづくりについて考えていく。				
2	すべての子どもが自己実現の喜びを味わう環境づくり		継続	多様な他者との交流を通して、自分のよさに気づく。	目標に基づいた振り返りによる自己肯定感の向上及び、振り返りの共有によるメタ認知を高める。	「自分は目標に向かって挑戦している」と思う児童を85%以上にする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">肯定的評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">76%</div> 自己目標を毎日のふりかえりに取り入れること、週に1度ふりかえりの共有を行うことができた。	3	2	振り返りを行うことが目的となっているので、メタ認知に関する研修を行い、振り返りの目的・意義を再確認する。				
2	運動に親しむ環境づくりや授業改善による体力づくりの推進		継続	自らの体力を把握し、自分に必要な運動に取り組む児童の育成	教員及児童がICTを活用し、動画を活用した授業、自己分析を行う授業づくりを行う。	「運動することが楽しい」という児童の肯定的評価を85%以上にする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">肯定的評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">86%</div> 全学年、ICTを使った授業づくりに積極的に取り組めた。授業の導入や自分の動きの可視化につなげることができた。	3	4	授業に活用できるアプリや、その使い方を発信し、教員及び児童がタブレット端末を活用し、個々に必要な学びを進めることで、体力向上を図る。				
3	教職員の元気保護者・地域から信頼される学校		継続	教職員が子どもたちと共に成長する職場づくりの実現	主任・主事を中心に、日々の取組状況の共有化、改善を進め、教育の質を高める。	「仕事に意義とやりがいを感じている」教職員を100%にする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">肯定的評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">98%</div> 部会において子どもたちの現状把握や進捗状況の確認、課題等を整理し、子どもが育つ取組を考え、子どもたちと共に成長していく意識を高めることができた。	3	4	対話を通して、教職員一人一人の日々の授業実践を交流することで、アイデアや挑戦心が生かされ、子どもが育つ学校づくりに対する参画意識を高める。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。